



衛研ニュース

第10号

川崎市衛生研究所

平成23年1月発行

新年のごあいさつ

本年も、地方衛生研究所の基本である試験検査、調査研究、情報解析・発信、研修指導を最新の科学知識・技術に基づいて行うとともに、健康危機対応の強化、市民ニーズや行政課題と密着した研究に引き続き取り組んでまいります。

また、「(仮称)健康安全研究センター」として、地域における健康危機管理のより強化された科学的・技術的な拠点、そして産学公民連携の拠点となるよう、平成25年1月の移転・開設を目指して準備を進めてまいります。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。



業務紹介

その1；水質検査室

「災害用井戸」とは？

生活インフラに甚大な被害が発生した阪神・淡路大震災を教訓に、川崎市では、個人が所有する井戸等を「災害時飲料水（生活用水）供給施設」に選定

して、災害時に近隣住民が使えるようにしています*。これらの施設は平成22年10月現在、237施設（飲料水31、生活用水206）が有り、防災マップ等により市民に公開されています。



*：「災害時における飲料水及び生活用水の供給源としての井戸及び受水槽の有効活用に関する要綱」に基づき、あらかじめ所有者の承諾を得て選定しています。

「災害用井戸水」の検査

災害はいつ何時起こるかわかりません。

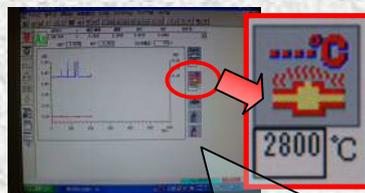
そのため、供給開始時の検査の他に、平時にも定期的（飲用；年1回、生活用水用；3年に1回）に水質の検査を行い、状況の把握に努めています。水道法で規定する13項目の検査の他、飲用のものはカドミウム、水銀等の重金属やトリクロロエチレン等の有機溶剤も検査項目に加え、「もしも」の時に備えています。

<重金属の検査；原子吸光光度法>

カドミウム、鉛、鉄等の多くの金属は「原子吸光光度計」という機器を用いて測定しています。これらの金属は、超高温で気体になり、さらに原子の状態になります（原子化）。この時に特殊な光を吸収します。この光の種類と吸収の度合いをすることで、金属の種類と量を調べることができます。



原子吸光光度計
この機器で測定します。



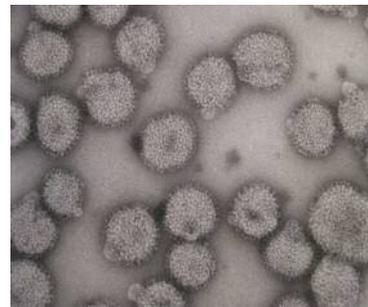
測定画面：
ただいま 2800°C に加熱中です



黒鉛炉(左:室温、右:2800°C)
加熱中はまぶしくて直視できません

インフルエンザに御注意

昨年は新型インフルエンザ(AH1pdm)がパンデミック（世界的大流行）の状態になりました。現在は通常のインフルエンザの流行状態に戻っていますが、今後、流行する型や発生状況に注意が必要です。



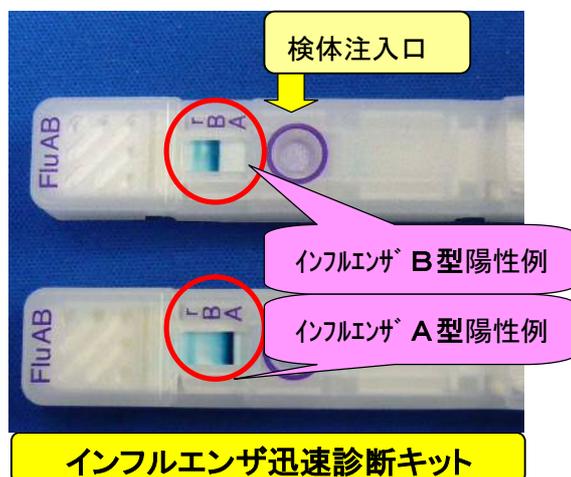
インフルエンザウイルスの電子顕微鏡写真

インフルエンザの臨床症状

風邪の80%はウイルスが原因とされています。その中でもインフルエンザウイルスが原因となる「インフルエンザ」は普通の風邪に比べて発熱が高く、筋肉痛、関節痛、悪寒等の全身症状を伴います。もしもそのような症状が出たら、すぐに医療機関に受診しましょう。

インフルエンザの診断と治療

診断は発熱、上気道炎等の臨床症状の確認と流行状況の把握によりますが、最近ではインフルエンザの迅速診断キットが普及しており、医療機関で検査を行い、オセルタミビル（商品名タミフル）、ザナミビル（同リレンザ）、パラムビル（同ラピアクタ）という抗インフルエンザ薬を処方されることが一般的になりました。



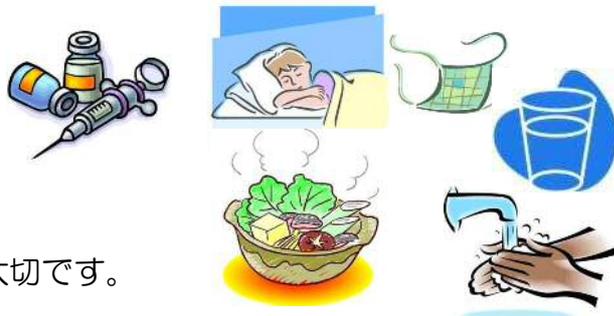
インフルエンザ迅速診断キット

衛生研究所では

より感度の高い「迅速診断キット」の開発に向けて、現在、従来からの検査法である「ウイルス分離培養」（衛研ニュース7月号参照）、「PCR」（衛研ニュース4月号参照）と「迅速診断キット」の感度を比較する研究をしています。

インフルエンザの予防

感染予防にはワクチンの接種が有効です。
また、普段から睡眠と栄養をしっかりとること、
外出時にはマスクの着用、帰宅時のうがいと手洗いが大切です。



★ 4月から12月までの『衛研ニュース』を下記HPアドレスからご覧いただけます。

発行元 川崎市衛生研究所

〒210-0834 川崎市川崎区大島5-13-10

電話 044-244-4985 FAX 044-246-2606

メールアドレス 35eiken@city.kawasaki.jp

HPアドレス <http://www.city.kawasaki.jp/35/35eiken/main.html>



KAWASAKI CITY
川崎市